

毎週日曜発行
2021 3/14こども新聞
週刊

がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



震災10年特集

東日本大震災の発生から10年を迎え、みんなはどんな考えを抱いているかな。宮城県沿岸部の学校の友達にふるさとへの思いを聞いたよ。

◇ 石巻市湊小6年の今野優翔君(12)はアパート

ぼくも私も語りたい!

ふるさとへの思い

未来につなぐ地域の力に

が津波で流されました。仮設住宅は「狭くて隣の音も聞こえた」と言います。今は新しい家に暮らしていて「広くてのびのびできる」そうです。地元の石巻は最大被災地といわれます。「早く復興できるといい。みんなが安心して暮らせる地域になってほしい」



南三陸町志津川中3年の高橋伶鳳さん(15)は「ふるさとが一瞬で奪われ崩れるような気持ちだった」と振り返ります。復興工事が進んだ今は「(土地を高く)かさ上げし、海がきれいに見えるように電線も地中化(一部)され、我慢できる街になりつつある」。自身については「外国語をもっと勉強し町のことを発信し、多くの人に来てほしい」と力を込めます。

名取市下増田小の周辺

も津波で浸水しました。6年の目黒舜大君(12)は「被害は大変だったけれど、家の田んぼでおいしいお米が取れるようになった」と笑顔。がれきや土の塩分を取り除いて農業を再開できました。大きな被害を受けた近くの閑上地区がかさ上げされて安心・安全に住めるようになったこと、き

れいな海と豊かな自然が自慢。「防潮林はまだ小さいけれど、大事に育てて住みよい街にしたい」と強調します。



巨理町荒浜中は津波で壊れた校舎を建て替えました。2年の及川茉莉奈さん(14)は「学校が再建さ



再建された巨理町荒浜中の校舎。津波被害を防ぐため1階部分が柱だけのピロティ構造(こうぞう)になっている

れ、街がきれいになって前の姿に戻ってきている」と指摘します。生徒と住民が協力し、防災拠点と観光施設を紹介する「あらはマップ」を作製。「海やはらご飯、イチゴなど特産品を生かし、観光客が増えるよう『被災したけど頑張っている』と伝えたい」と意欲的です。

女川町女川中2年の木村凜子さん(14)は津波で自宅1階が浸水。「がれきだらけで友達の家もなくなり、不安でした」と説明します。

生まれ変わった街並みを「海が見え、人気の海、鮮井もある。観光客が大勢来てくれる」と誇ります。「子どもやお年寄りも生き生きし、にぎやかな町であり続けてほしい」と期待します。

◇ みんなの願いや希望は地域の力になるよ。未来につないでほしいな。

今週の注目ニュース

◇19日(金) 2年ぶりの選抜高校野球開幕
第93回選抜高校野球大会が兵庫県西宮市の甲子園球場で始まるよ。去年は新型コロナウイルスの影響で中止。東北からは宮城の仙台育英と柴田、青森の八戸西が出場するんだ。仙台育英の選手宣誓にも注目しよう。

きょうの紙面

- 2面 イマ★どきりポート
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 絵でわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 子育て・教育相談コーナー

みんな思い出

みんな言いたい

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ